



UTMC Press Manual

\$ man utmcpres

Anonymous (名無しさん)

1. はじめに

1.1 これはなに？

これは記事執筆のマニュアル的存在です。

記事を執筆する前に一読しましょう。

1.2 動作環境について

とりあえず学校の Mac 端末で作業をすることを想定しています。Linux など UNIX 系 OS ならばほぼ問題ないかと思いますが、Windows などでは若干やり方が変わる場合があります。ご了承ください。

1.3 構成

「執筆者向け」と「編集担向け」の二つに分かれています。記事を書きたい人は「執筆者向け」を参考に書いていきましょう。

編集担は、「編集担向け」だけでなく両方の解説を読んでください。

2. 執筆者向け

2.1 記事の書き方

2.1.1 T_EX のおべんきょ

T_EX が分かることが前提です。分からない場合には適当な解説本を参考に勉強しましょう。

2.1.2 記事を決める

まずは何を書くか、記事の内容を決めます。記事については以下の Orios 先生基準^{*1}に従うのが賢明でしょう。

検閲を通過する記事は以下の式で表される。

$$「W \cup L」$$

ただし、

W 部誌として許される記事
 L 合法的な記事

具体的内容は以下の通り。

- エロ
刑法（わいせつ物陳列罪）・児童ポルノ禁止法に抵触しない限り
- グロ
なし
- 著作権・肖像権
同人誌基準
- 名誉毀損・侮辱
刑法基準何かを正当に批判する場合は十分な根拠と論理的展開が必要です
- 差別的記事
現行法では特定の集団（個人ではない）を差別する言論を発表しても罰せられません
- 政治的宣伝
なし
- 宗教勧誘
なし
- 営利活動
なし
- 犯罪の助長
なし

2.1.3 記事の英語表記を決める

記事名の英語表記^{*2}を決めてください。

^{*1} 一部改訂しております

^{*2} 正規表現で表現するならば、`[_0-9a-zA-Z]+` など

2.1.4 環境整備

決まったら、

```
articles/sample.tex
```

を、

```
記事名の英語表記.tex
```

にリネームします。

さらに、

```
preview.tex
```

内の最後の方にある、「sample」も記事の英語表記に変更します。

2.1.5 書く

後は書くのみ。今リネームしたファイルに思いの丈をぶちまけてください。

2.2 エンコーディングについて

近年の国際化の流れに従い、文字エンコーディングは UTF-8 で統一しました。学校の Mac でも、

```
$ echo $LANG
```

```
ja_JP.UTF-8
```

と、UTF-8 をデフォルトエンコーディングとして採用しているようです。ですので、Unicode に対応したエディタでの編集をお願い致します。

2.3 画像について

画像を記事中に入れたい場合には、

```
images/記事名の英語表記
```

というディレクトリを作成し、この中に画像ファイルを入れていきます。

2.3.1 画像形式について

画像のファイル形式は PNG, JPEG, GIF などいろいろありますが、これらの画像形式は環境によってはキチンと認識されないことがあります。TEX 標準の画像形式は EPS であり、これならばどの環境でも読めるはずですので、EPS 形式で埋め込むことを推奨します。

EPS 形式に変換するには、

```
$ convert hoge.jpg hoge.eps
```

のようにします*3。

*3 うまくいかなかった場合には EPS でなくても構いません。そこら辺は編集担のお仕事だと思うので…

2.3.2 ファイル名指定

記事ソースファイルの一番初めの、

```
\graphicspath{{../images/sample/}}
```

を指定した効果で、ファイル名を直接指定するだけで画像の埋め込みができます。

```
\begin{center}
  \includegraphics[width=.3\textwidth]{tiger.eps}
\end{center}
```

とすると、



といった具合に表示されます。「../images/sample/tiger.eps」などと指定する必要はありません。

2.4 ソースコードについて

ソースコードを記事中に書きたい場合があるかと思います。短い場合には **T_EX** ソース中に直接書いてしまえばよいのですが、一ページを超えたあたりで分離したくなります。そこで、ソースコードを外部のファイルから読み込む際には、「sources/」記事名の英語表記_{ll} ディレクトリを作成し、その中にソースコードを突っ込んでください。

```
\inputsource[caption=C 言語による Quine の例,label=C_quine]{C}{hello.c}
```

といった感じでソースコードを出力できます。

ソースコード 1.1 C 言語による Quine の例

```
1 /*
2  * C 言語による Quine 。
3  * コンパイルし実行すると、このソースコードと同じものが標準出力に出力される。
4  */
5 int main(){char *s="int main(){char *s=%c%s%c;printf(s,34,s,34);}";printf(s,34,s,34);}
```

2.5 コンパイル

記事を書き終わったらコンパイルをします。

```
$ make preview
```

でプレビューを見ることができます。

表紙や奥付を含めた正式なものを出力するには、

```
$ make showdvi
```

または、

```
$ make showpdf
```

とします。

dvi や pdf のビューアが嫌ならば、「Makefile」の最初らへんをいじるか、

```
$ make showdvi DVIVIEWER="your_dvi_viewer"
```

```
$ make showpdf PDFVIEWER="your_pdf_viewer"
```

とします。

Windows な人は、

```
latex -kanji=utf8 -output-directory=tmp -interaction=nonstopmode preview.tex
```

をコマンドプロンプト上で実行してください*4。すると「preview.dvi」なるファイルができるので、DVI ビューアがインストールされているなら、ダブルクリックで見れるはずです。

2.6 原稿提出

原稿が書き上がったら原稿を提出します。面倒ならばディレクトリ内のファイルを全部まとめて ZIP なり 7-Zip なりにまとめて提出してもよいのですが、弄っていないファイルとかもあって無駄なので、最低限以下のファイルをアーカイブしてください。

- 「articles/記事名.tex」
- 「images/記事名」 以下
- 「sources/記事名」 以下
- 「preview.tex」
- 他に自分で追加・編集したものがあれば

*4 複数回実行する必要がある場合があります

3. 編集担向け

3.1 記事の処理の仕方

記事を集めた後に、印刷できる状態にするための手順を説明します。

その前の段階^{*5}については過去の ML を参照するなり、IRC で質問するなりしましょう。

…といってもほとんど仕事なかったり。とにかく原稿をもらったらテンプレートないにマージして、「utmcpres.tex」を編集して、コンパイルが通るか確認。確認できたら、

- 画像が正常に表示されているか
- ラベルはキチンと解決されているか (?? などになっていないか)
- 内容は記事にできるものか
- 誤字脱字・その他不備はないか

などなどを確認していきます。

まあ編集担に任命された時点である程度はできる人なのだと思うので、あまり細かいことは言いません。

3.2 ディレクトリ構成の理念

理念というほど明確な何かがある訳ではありませんが…

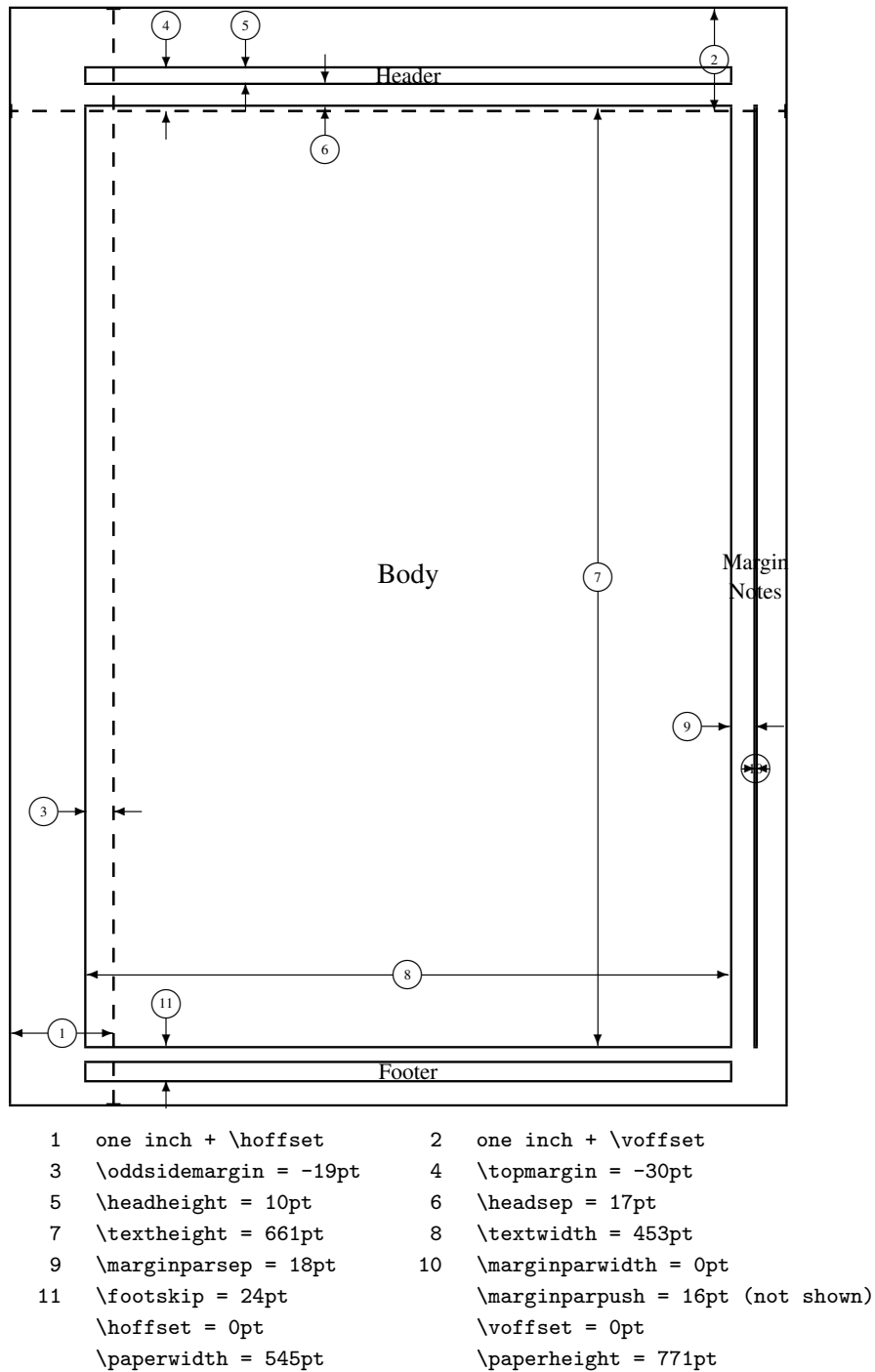
- articles
各記事の TeX ファイルを放り込むとこ
- documents
編集者向けの (旧) ドキュメント
- images
画像ファイル置き場
- includes 記事に属さない TeX ファイル (表紙、奥付…等々)
- out
コンパイル済み dvi ファイルや pdf の隔離室
- sources
記事にソースコードを含める場合、ここにそのソースコードを入れる
- tmp
コンパイル中に出た各種一時データ (目次の情報など) とログファイルのお墓場

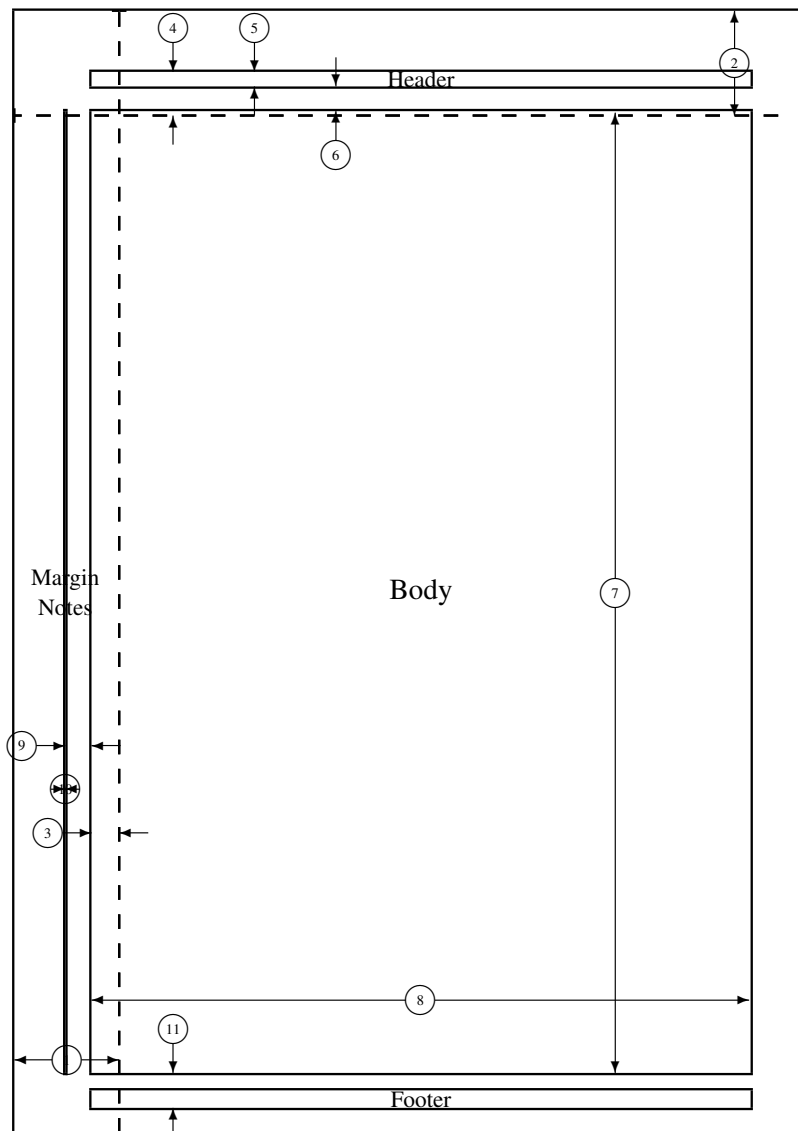
という感じ^{*6}。

^{*5} 原稿を募集したりなんたり

^{*6} 思ったんだけど、これだとファイルの種類ごとにディレクトリを分離していることになるけど、そうじゃなくて、「articles/hoge/」とかいうディレクトリを作って、その中に全部つつこむ、という風にしたい方がいいかも

3.3 現在のレイアウト





- | | | | |
|----|-------------------------|----|-----------------------------------|
| 1 | one inch + \hoffset | 2 | one inch + \voffset |
| 3 | \evensidemargin = -19pt | 4 | \topmargin = -30pt |
| 5 | \headheight = 10pt | 6 | \headsep = 17pt |
| 7 | \textheight = 661pt | 8 | \textwidth = 453pt |
| 9 | \marginparsep = 18pt | 10 | \marginparwidth = 0pt |
| 11 | \footskip = 24pt | | \marginparpush = 16pt (not shown) |
| | \hoffset = 0pt | | \voffset = 0pt |
| | \paperwidth = 545pt | | \paperheight = 771pt |